

公益財団法人痛風・尿酸財団 2021年度 事業計画書

1. 基本方針

痛風だけではなく痛風は発症していない高尿酸血症の人や尿酸が関連する様々な疾患の人も対象としている財団である事を示したいとの思いから、一昨年7月1日から財団名を「公益財団法人痛風・尿酸財団」と変更致しました。これにより、医師、医学研究者、更には医療従事者、患者さんや一般の方も参加できる財団になったと考えております。

今回の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い改めて医学や医療に対する重要性が再認識され、当財団の支援助成事業の期待が増加しております。一方で昨年来の資産運用環境の低下の上に、緊急事態宣言などの影響から薬品会社をはじめ多くの企業の業績が悪化しており財団の支援助成事業を支える寄付金や賛助会費などは減少しています。

研究者を支える当財団の支援助成事業には関係者の期待も高く医師や医療関係者を対象とした診療の研修、更には痛風・高尿酸血症に関する啓発活動を活動の柱として、国民保健の向上へ寄与する事を財団活動の一貫した基本理念として行きたい。

2. 計画内容

(助成対象テーマ)

(1) 研究助成

・ 対象者及び対象分野

財団の助成を基に各種研究や新薬の開発など多くの成果が得られているが、今後も成果が期待される研究課題を掲げる団体・共同研究グループ及び個人に対して支援助成を行う。対象分野は痛風及び尿酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究として広く応募を受け付ける。

・ 受付期間：2021年9月1日より同10月31日

・ 助成金総額予定 600万円

・ 選考方法

専門分野などを考慮して理事会にて選任した選考委員により選考を行う。各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め採点し、その集計結果をもとに12月初旬の選考委員会に於いて審議を行い助成対象者と個々の助成金額を決定する。

・ 研究成果の検証

当該助成による研究成果検証のために、2023年3月までに成果報告或いは成果論文の提出を求める。

(2) 第32回 痛風・尿酸研修会

新型コロナウイルス感染状況などをみながら、従来の一室に介しての講演会方式か昨年のような自宅学習方式で行うかを6月頃までに発表する予定です。今後とも全国の医師や薬剤師などの医療関係者を対象として、痛風や高尿酸血症についての研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、理解を深めることで診療普及につなげていきたい。

(3) 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。「何科の診療を受けたら良いか」「専門の医師が診療に当たっている医療機関は何か」などの相談に対し、全国の約125ヶ所の痛風協力医療機関を紹介している。しかし、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず研修会参加医師への呼びかけや関係者からの紹介などを通じて協力医療機関を増やすよう努めて行く。

(4) ホームページによる啓発事業

痛風や尿酸に関する最新ニュースやトピックスなどをタイムリーに掲載する「痛風・尿酸ニュース」欄の新設などの刷新によりアクセス数は増加傾向にあり、これに応えるべく痛風や尿酸の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず患者さんに役立つ情報の提供を心掛けたい。

(5) 小冊子「尿酸値をコントロールする」及び会報の発行

尿酸値に関する情報を要約している小冊子への要望は多く、協力医療機関を通じて希望する患者へ広く行き渡るよう手配するほか、個々の希望者に対しても都度対応して行く。

又、研究成果や医学情報などを掲載した会報を1月と8月の年2回発行し、賛助会員や関係者へ送付することで情報伝達を計っていく。

(6) 一般の方からの質問に対する対応

患者や家族や一般の方からの質問や問い合わせ件数は増え続けており、その質問の内容は医療機関の紹介依頼から始まり、食事や飲料に関する注意点や痛風の治療に関する事など多岐に亘る。各々の質問に対して痛風協力医療機関の紹介や各専門分野の医師の助言を伝えていく。このような啓発助言活動は今後もきめ細かく対応していく所存である。

以上